

リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	2024年度 東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務		作成会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋㈱		
工期	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日		作成者	中島 強太		
作業名称	緊急作業 オイル処理	作業手順書	作成年月日	令和5年6月26日		
使用機械 使用設備	2tトラック 1台		改正年月日			
	※必要時『標識車 1台』		現場責任者			
使用工具、機器	スコップ、ほうき、デッキブラシ、台車、ブロアー、背負式手動噴、シラスダー		協力会社	会社名		
	※必要時『チェンソー』『インパクトドライバー』『草刈機』等		協力会社責任者	自筆サイン		
保護具	ヘルメット、安全靴、脚絆、マスク、手袋(草刈り作業時は耐切削用)、視認性の良い作業着、自発光チョッキ(夜間及びTN内)		作業順序			
材料	オイル処理材 (オイルメディ・スパー、オーエスライト・スパー、オイルメディマツ・スパー、河川オイルフェンス)					
免許・資格等 (免)(技)(特)(準特) の区別を記す	自動車運転免許証(中型)					
	振動工具取扱作業者安全衛生教育、伐木等の業務に係る特別教育、刈払い機取扱作業者					
作業人員	作業責任者 1人、作業員 3名、保安員 2人					
	※必要に応じて、増員可 合計 6名					
作業手順 周知会 参加者 サイン (記録)	作業責任者(職長)	周知会実施日			令和4年7月28日	
	(役割を確認してこの作業に関わる全員が自筆サインする)					
					1	事前準備
					2	出発～現着
			3	作業開始		
			4	後片付け		
			5	現場離脱		

リスクの見積り	重大性			組み合わせ	リスクの評価	優先度又は実施担当者
	○:軽微 休業4日未満	△:重症 休業4日以上	×:極めて重大 死亡・障害を伴う			
可能性	○:めったに発生しない (5年に1回程度)	○△	○×	○○	1:極めて小さい	関係者に対策の周知
	△:時々発生する (1年に1回程度)	△△	△×	○△、△○	2:かなり小さい	関係者に対策の指示
	×:かなり発生する (6ヶ月に1回程度)	×△	××	○×、△△、×△	3:中程度	職長が確認
		×○		△×、×△	4:かなり大きい	工事担当責任者が確認
				××	5:極めて大きい	十分に訓練をした対策が必要

リスクレベル 5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対策の指示 1=関係者に対策の周知

作業項目 (誰が)	手順 主なステップ	急所 作業のポイント	リスクの洗い出し (予想されるミス・ロス)				可能性	重大性	評価点	リスクレベル	ミス・ロス	リスクの除去・低減のための 実施すべき事項の特定 (防止対策)
準備作業(全員)		健康状態の確認・免許・資格等の確認・光物(チョッキ・脚絆・ヘッドライト等)の充電確認・業務用プレートの確認、入場方法・入場箇所・車両順番・役割分担の確認・車両の始業前点検、工具の確認、積み込み荷の確認(落下・飛散対策)荷締め位置、荷台のネット・シート掛けの確認する。 工事車両幕がロープ及び養生テープで確実に固定されていることを確認。 担当者は施工計画段階でNEXCOと打合せした内容を作業員へ周知・報告すること。 車両出入庫の際に、運転手は車両の周囲(上下含む)を指差し、障害物が無い事を確認のうえ、出入庫する。										
現地確認(全員)	作業箇所確認	危険ポイントの確認										
	ケーブル等周辺安全確認 (埋設物・構造物)	管理用図面で事前確認	図面がないケーブルが確認された場合、作業を中断し、担当者へ報告すること。									
	排水系統確認 (集水溝・流末部)		排水系統図以外に流出が確認された場合、担当者へ報告すること。									
事前準備	出発前の車両点検及び道具の準備	忘れ物がないよう全員で準備を行う	重量物を降ろしたり運ぶ際に腰を痛める	×	○	×○	3	安			重量物を運ぶ際は、2名以上で声を掛け合いながら運ぶ。	
			荷台シート養生時に足を滑らせ転落する	△	△	△△	3	安			単独作業は禁止とし、2名以上でシート養生を実施する。	
			破損した資機材を積み込み、現場にて使用が出来ない	△	○	△○	2	品			準備時、破損が無いかの確認を実施する。	
出発～現着	基地(事務所) 出発及び路肩流入・現着	現場付近の路肩及び車線内への流入を行う	後続車への注意喚起が遅れ、線形や視界が悪い場合衝突される	△	×	△×	4	安			道路線形等を考慮し500m以上手前から回転灯、表示等を明示する(視界が悪い場合は、1km以上手前より実施)	
	簡易路肩規制設置	車両の切れ目を確認し設置する	交通量が多い、又は狭小路肩内にて作業時一般車と接触する	△	○	△○	2	安			誘導員の合図の元、車両の切れ目を見て設置する 標識車後方に矢印板を3枚設置し、1枚目の矢印横にピカボン設置	
作業開始	作業開始	流出付近に火気発生源が無い確認する	対応を急ぐ余地、発生源付近で作業を行い、2次災害となる	△	×	△×	4	安			火気発生源がある場合は、HSCと協議を実施し、所轄消防等の処理が終了後に必ず行う	
		流出源の確認及び範囲の確認をする	流出源の確認を怠り、拡散する	△	×	△×	4	環			現場到着後、全員で流出源及び流出範囲を確認する ※夜間時は、視界が悪い為、照明器具を十分準備する	
		流出範囲内に、オイル処理材を設置・処理する	使用方法を間違えて、十分な処理が行えない	△	×	△×	4	環			作業開始前に、資機材の使用法を確認し処理を行う	
		オイル吸着・処理後、オイル処理材を回収する	オイル吸着・回収が終わらないまま、撤去を行う	△	×	△×	4	環			流出オイルが確実に回収出来たかの確認 ※当日回収が困難な場合は、HSCと協議し後日回収する	
離脱	離脱	清掃作業を確実に実施	清掃作業を怠り、一般車両通過時に資機材が接触し管理瑕疵となる	△	△	△△	3	公			従事者全員にて清掃完了確認の実施を徹底する	
後片付け	後片付け・機材整理	オイル処理材を指定の箇所に仮置きする	処理材の仮置き場を間違え、不適切な処理を行う	×	△	×△	4	環			仮置き場を全員で確認する ※仮置き後、適切な産業廃棄物として処理を実施する 工事車両幕を取外した場合は専用のケースに確実に格納し車内に保管する事	

リスクレベル 5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対策の指示 1=関係者に対策の周知